

# 合理的配慮の提供に活かす就学前後の支援情報の 機能的翻訳に関する研究 3

—就学前後の支援場面の関係について—

○有川 宏幸  
(新潟大学教育学部)  
KEY WORDS: 合理的配慮

立田 幸代子  
(岸和田市立保健センター)  
情報引き継ぎ 就学前後

## I. 問題と目的

就学前後では支援環境、専門性が異なることから、支援内容に関わる情報の解釈も異なる可能性が指摘されている(有川・立田, 2015)。また有川・立田(2016)は、幼稚園教諭が、支援を提供している保育場面について明らかにしている。

そこで本研究では就学前に支援を必要としていた児童の就学後の様子について明らかにする。

## II. 研究方法

### 1. 対象

A県B市公立幼稚園に在籍する児童で、何らかの支援ニーズがあり、実際に就学時に小学校へ情報引き継ぎを行った児童61名。未回答、欠損値があった5名は分析対象から外し、最終的に56名について分析を行った。個人情報保護の観点から、筆者には所属や個人名はすべて伏せられた。

### 2. 質問紙

質問紙は、有川・立田(2015)の結果をもとに素案を作成した。さらに有川・立田(2016)の結果を考慮し、全部で15項目からなる質問紙を作成した。回答期間は、予備調査において入学後間もない第1学期は、児童の実態把握が十分ではない可能性が示唆されていたことから第2学期終盤の201X年12月1日から12月28日とした。回答は「まったくない」「あまりない」「時々ある」「いつもある」のいずれか一つに「○」をつけるよう求めた。

### 3. 分析

就学前の幼稚園での様子については、有川・立田(2016)により抽出された5因子(「集団活動」「断続的活動」「対人活動」「設定保育」「活動切替」)について、児童それぞれに因子得点を算出した。また就学後の様子は、質問紙の各回答を「まったくない」を1点、「あまりない」を2点、「時々ある」を3点、「いつもある」を4点とし処理した。

就学前の支援場面(5因子)の因子得点と、就学後の様子について質問した全15項目の回答から、Pearsonの相関係数を算出し、その関係を明らかにした。

## III. 結果と考察

就学前の支援場面と授業理解(項目15)や課題遂行の様子(項目7,9)の間に相関はみられず、就学前の支援情報から就学後の授業場面における配慮について検討することは、困難である可能性が示唆された。

		就学前の支援を必要とする場面				
		集団活動	断続的活動	対人活動	設定保育	活動切替
1	我を通そうとする。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.261 .052	.257 .056	.440** .001	-.018 .898	.307* .021
2	行事や集会などでの活動内容が、理解できない。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.507** .000	.305* .022	.065 .633	.302* .024	.178 .189
3	行事や集会などの集団活動時に参加できない。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.303* .023	.437** .001	.119 .381	.178 .189	.189 .162
4	課題や作業の途中で、手や動きが止まってしまう。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.292* .029	.187 .168	.096 .480	.140 .303	.079 .564
5	友人や周囲の児童との関わり方が気になる。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.234 .083	.331* .013	.128 .345	.250 .064	.136 .316
6	周囲の児童にちょっかいを出されると、それに反応する。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.269* .045	.165 .223	.428** .001	.041 .766	.376** .004
7	他児と比べ、課題や作業を終えるまで時間がかかる。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.246 .067	.128 .345	.052 .705	.207 .126	-.060 .662
8	課題や作業の開始を促す声かけが必要である。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.389** .003	.293* .029	.057 .677	.284* .034	.096 .480
9	課題や作業が完了しないと、次の課題へ移れない。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.173 .202	.211 .119	.044 .746	.198 .144	-.013 .922
10	好きな課題や作業と比べ、嫌いな課題や作業への取り組みに差がある。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.232 .086	.366** .006	.340* .010	.011 .934	.187 .167
11	課題や作業への従事時間が短く、注意喚起することがある。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.296* .027	.249 .064	.347** .009	.036 .790	.293* .028
12	行事や集会などの集団活動へ参加しないことがある。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.321* .016	.513** .000	.187 .167	.225 .095	.317* .017
13	他児のミスや間違えを責め続けることがある。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	-.086 .531	-.107 .431	.336* .011	-.151 .268	.141 .301
14	前の課題や作業から、次の課題や作業へ移るときに声かけが必要である。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.357** .007	.349** .008	.110 .418	.222 .100	.155 .255
15	教示の理解や、授業内容の理解面で気になることがある。 Pearsonの相関係数 有意確率(両側)	.226 .094	.151 .266	-.139 .305	.154 .256	-.067 .621

児童の2対1の割合で実施

\*\* 相関係数は1%水準で有意(両側)  
\* 相関係数は5%水準で有意(両側)

## 文献

- 有川宏幸・立田幸代子(2015)「合理的配慮の提供に活かす就学前後の支援情報の機能的翻訳に関する研究1」. 日本特殊教育学会第53回大会発表論文集. USB.
- 有川宏幸・立田幸代子(2016)「合理的配慮の提供に活かす就学前後の支援情報の機能的翻訳に関する研究2」. 日本特殊教育学会第54回大会発表論文集. USB.

科学研究費助成事業(基盤研究C 課題番号26381313)の助成により行われた。  
(ARIKAWA Hiroyuki, TATSUTA Sayoko)